

教育目標	「学園は、教える者と教えられる者が、相互の信頼によって相互に生かされる精神的な共同体という」理念の下、知・徳・体を錬成し、調和ある人間像を確立する。				
経営方針	(1) 「自律的な精神」、「思考力と創造的な知性と技量」、「自然愛や人間愛を大切に作る豊かな情操」を培う。 (2) 日本人としての美德を育て、実践的な社会性を養うとともに、国際化・情報化社会のフロントランナーとして、社会貢献できるフェアなリーダーとしての資質を培う。				
本年度重点目標	I 知育の推進 II 徳育の充実 III 健康な身体の育成 IV 豊かな生活の追求 V 家庭地域との連携 VI 生徒募集 VII 教育施設設備の活用				
重点目標	評価項目	具体的な方策または項目を評価する具体的な指標	平成27年度の実施状況	職員からのコメント	関係者からのコメント
I 知育の推進	授業の充実と偏差値上位大学進学に向け啓発	① 楽しくわかる授業実施 (講義式の脱却・グループ活動導入等) ② 国・数・英で先取り学習の実施【11月授業より実施】 ③ 英語、数学等で反復学習【ベネッセ偏差50以上60名】 ④ 放課後プロジェクトの実施【一日10名以上の来室】 ⑤ 進学指導の専門家や大学合格者の講話【1回以上】 ⑥ 技能四教科の重要度啓発【一斉道徳等で話す】	・教員研修会参加 ・J2オタクキャンプで企業 (JMU)・東大見学 校長・OB講話実施 進学意識高揚に効果あり ・実力テスト偏差値50以上 J2約10名 J3約22名が目標達成 年度後半に実績向上 ・職員を曜日別に割り振り 教室でも指導あり 指名補習が中心 ・3/中旬 内進高校3年生による進路講演実施 中学生の関心は高い ・啓発講話、安全面も含め、技能教科時の学習態度啓発指導	B ・授業の改善の余地がまだ大きい。 ・現実をふまえて対応されている。 ・グループ活動が不十分である。 ・先取り学習が後退している。 ・進路意識がよく高められていると思う。	B ・改善すべき余地あり。 ・学力向上していると思う。 ・学力補充の対応をもっと行ってほしい。 ・大学進学についての関心を高めてほしい。
	定期テストや進研模試等で学力把握	① 定期テスト、学力推移ベネッセテスト【偏差70-10名50-60名】 ② 実力確認テスト (高校入試) 2~3年受験 入試時順位の目標【順位50以内5名500以内30名】 ③ テスト対策のマニュアル化 (全ての職員が的確な指導可能) ④ 英語検定参加奨励【準2級以上40名・3級以上90名】	・ベネッセテスト J3 11月2回時 70台-0 60台-9 50台-13 全国偏差値 J2 11月2回時 60台-1 50台-9 70台が減少 入試 三科目 J3 500位前後以内 20名 850位前後以内 7名 例年並みの成果あり J2 850位前後以内 3名 ・英検10月 2級 (1)、準2級 (14)、3級 (7) 第3回目結果で、例年並みの成果	B ・意欲的によく頑張っているように見える。 ・実際的によく対応している。 ・学力レベルが低下し続けている傾向あり。 ・中上位の学力は比較的伸びている。 ・英検指導の成果は定着しており、良いと思う。 ・J2の実力確認テスト実施について、要検討。 ・ベネッセ対策をもっとやりたい。	B ・数値的にはまだ上を狙える。 ・ベネッセテストの実施回数は学力向上につながっている。 ・教員のチーム力がもっと必要。
	生きる力や総合力をはぐくむ活動の設定	① 活動後に、体験・調査の資料整理や展示・発表等の総合力育成の場を設定【掲示発表1回以上】 ② 実行委員会を組織した生徒活動【生徒80%が経験】 ③ 発達や興味踏まえ読書奨励【朝読書で年間10~15冊】	・J3模擬店/アトラクション J1・J2 展示/アトラクション 意欲的に取り組んでいる ・主要行事・フィールドワーク掲示発表 定番化してきた。個性が良く表れている ・科学研究講座J1有志参加 (ディスカバリーパーク焼津) ・J3文化祭委員、修学旅行実行委員 J2 スポーツデイ、オタクキャンプ 実行委員 ・読書週間にピブリアバトル 年2回実施 レポートには主体性や個性がよく発揮された。	B ・生徒達がよく協力する姿がよく見られた。 ・内容が多岐にわたり、充実している。 ・読書の内容はまだ課題あり。	A ・様々な活動が展開されていて良い。 ・中学生の参加は一貫校の良さ。
日本文化理解と国際教養醸成	① 地域理解行事修学旅行含む【各学年1回以上実施】 ② 外国人等の講演や交流会の実施研究【各1回】 ③ 英会話授業の実施【ネイティブ教師週1回】 ④ 禅寺の活用 (学園の原点)【中学2年4月実施】 ⑤ 国際化の視点【英会話授業や特別講話からのフィードバック】	・J3 富士五湖 関西修学旅行 J1 三保の松原、登呂遺跡 総括を工夫し啓発効果を上げたい ・J1~J3伝統工芸体験 (塗り箸、染め物、陶芸) ↑ ・国際教養特別講話 (年4回)、感想文提出 ↑ ・J1~J3英会話授業 (週一回) 等で啓発 スピーチの取り組みに特に効果 ・J2 スプリングキャンプ (可睡斎にて宿泊訓練) 学校理解の機会をもう少し持ちたい ・J2 オタクキャンプ JMUの見学 ・海外高校生ホームステイ受入	B ・色々取り組んでいる。 ・国際化の視点の取り組みは不十分ではないか。 ・国際教養講話難しく、生徒達には理解しづらい。	B ・国際教育に力が入れている。 ・中学生には色々体験させたい。 ・明誠らしさについて考えたい。 ・雰囲気の良いを感じる。 ・難しい目標に取り組んでいる。	
II 徳育の充実	基本的生活習慣の確立	① 身だしなみと挨拶の指導を徹底【校風検査指導0人】 ② TPOに合わせ声を出した挨拶、授業態度、言葉遣い等を学年の発達段階をふまえて指導。【全体指導を年4回 学期2回】 ③ 清掃指導の徹底【毎日】 ④ 教室内(ロッカー、机、施錠等) 整理整頓【指摘0件】	・月例校風検査実施 ・J1 キャンプ や4月の集団道徳で徹底 基本の指導 ・全体講話時に当番生徒のロールプレイを活用し、意識付け ・職員主導で指導と点検実施 ・共通理解をもとに安定的に実施	B ・挨拶がやはり不十分である。 ・全体的に落ち着きがあり、整然としている。 ・明誠の規則を守れている。 ・もっと心の奥に触れる指導を目指していきたい。 ・礼儀、マナーが身につけている生徒が多い。	B ・挨拶の励行に期待したい。 ・校内がきれい。 ・高校生を模範として見習わせたい。
	特設道徳の充実と行動化	① 本校の理念一全校で一斉道徳実施 (講話設定) ② 地域清掃ボランティアの実施【年1回実施】 ③ 自律性と社会性を培う場を設定し行動化を図る ④ 交通マナーの指導【自転車事故 0件】 ④ 道徳資料「心のノート」の利用 (成長期の心の変化把握) ⑤ 情報関連機器・アプリ使用時の人権問題指導【1回】 ⑥ 「いじめ」皆無の指導【調査年2回、件数は0件】	・理念と徳目に沿った校長等講話 指導要領に沿った題目で計画的に実施 ・日程変更のため未実施 独自の取り組みについて健闘したい ・全体集会の司会 (HR委員) 前期J3 後期 J2 ・5月交通安全教室実施 マジオ自動車教習学校の活用 ・担任による道徳授業で適宜配慮 ・7月携帯安全教室 (NPOイランパ) ・4月出会いの会実施 全体集会での啓発講話。	B ・見えないところでの友人間のいざこざがある。 ・小さいいじめが絶えない。 ・道徳に関する研修が必要だと思う。 ・自転車マナーが比較的良い。	B ・いじめ対策がもっと必要と思われる。 ・徳育の充実が学力向上につながる。 ・声が小さく、控えめの生徒が多い。 ・道徳授業への取り組みが意識不足。

II 徳育の充実	個を尊重する意識の醸成と態度の育成	① 情報交換で個の把握 【定例部会 15回以上実施】 ② 欠席・遅刻の減少【欠席連続3日以上保護者連絡】 ③ スカルの熟読とコメント 【毎日9割の提出】 ④ 個別指導には、養護、カウンセラー、生徒課の活用	・定例部会等で情報交換 ・担任段階で毎日把握、部長も確認 ・担任の熟読、アドバイスを継続中 ・適宜支援を受け、安全を期している	B	・定例会は重要。時間内で実施できないか。 ・学年相応に成長出来ており、成果は出ている。 ・情報共有はもっと必要である。 ・出席率が良く、学校に気持ちが向いている。	B	・情報共有を促進し、生徒の長所をよく伸ばしてほしい。
----------	-------------------	---	--	---	--	---	----------------------------

平成27年度 藤枝明誠中学校 学校評価の指標 (年間) 【職員・学校関係者】 (評価の基準 A 十分に実践されている B ある程度実践されている C 不十分 D わからない) H28.4.1 NO-2 裏

重点目標	評価項目	具体的な方策または項目を評価する具体的な指標	平成27年度の実施状況		職員からのコメント		関係者からのコメント
III 健康な身体 の育成	体育行事の用意 (団体行動や 行事運営の 基本も学習)	① スポーツデー 【生徒主導で年2回実施】 ② 心身の持久力育成【持久走会1回、学年で他1回】 ③ 体育大会の活用(集団育成にも) ④ 武道奨励一男子は特設柔道授業、女子は剣道 部活動奨励 【県大会出場6部活】 ⑥ ダンスデー(体育指導要領一表現力・集団)【11月1回】	・年三回実施 二回目から運営はJ2主体 生徒たちの自覚も向上している ・1月雨天延期 2月天候不順・監督観察体制不十分のため中止(授業で対応) ・団体競技練習(学級集団作りに生かす) ・柔道部・剣道部の寒稽古参加 ・棋道部 全国出場 ・11月に実施 表現のねらいについて改善の余地あり 来校者数は90名前後で過去最大	A	・スポーツデーなど積極的に取り組んでいる。 ・集団育成する体制ができています。 ・行事のバランスが取れていると思う。	A	・文武両道が積極的に実践されている。
IV 豊かな生活 の追求	特別活動や 課外活動の準備 と充実	① キャリア教育の推進【土曜に設定 年間10時間】 学年段階の指導のマニュアル化(全担任的確指導) ② 文化祭に、学年・学級で参加 【6学級参加】 ③ フィールドワーク(創作活動・史跡見学等)【2回実施】 ② 芸術鑑賞、修学旅行等の事前指導 見所等の指導を充実 【指導 6時間】 ⑤ 行事や活動のまとめを発表会等で実施【延べ8回】 ⑥ 学級集団の向上(行事・授業等活用) ⑦ 県市町及び各種団体からの応募活動に参加 【10種目以上応募】 【生徒3回は挑戦】 ⑧ 金曜6限「学級活動」の有効活用で集団の育成 【年間19回実施】	・ベネッセのワークシート/ファイル 活用 ・模擬店、アトラクション、展示・入試コーナー等 定番化した観あり ・J1～J3 7月制作体験 J1 3月山梨/富士周辺探訪 J2 大企業見学 J3卒業遠足 ・J1～J3 芸術鑑賞(三味線) J3古都の美術・芸術 検索研究 ・J3 修学旅行新聞作り J2 オタクキャンプ新聞作り J1 地域探訪新聞作り ・J1～J3 フィールドワーク・主要行事の事後指導として個別新聞作り実施 ・私学読書コンクール参加 ・各種行事の事前/事後指導 テスト計画と反省 学級/学年としてのふりかえり等 生活改善と今後の展望に活用	B	・内容が充実しており、貴重な体験ができています。 ・掲示されている新聞を楽しく見ている。 ・諸活動が計画的に行われている。 ・行事に流されることなく、きちんとふり返りをしたい。	A	・芸術に対しても積極的に活動が行われている。 ・それぞれ良い経験になっている。今後につながると思う。 ・明誠らしさをどんどん追求して行ってほしい。 ・マナー化を防ぐ工夫をしたい。
V 家庭・地域 との連携	対話の増加	① 面談の奨励(希望面談も用意)【面談参加100%】 ② 保護者会実施 【6月、2月の2回両方で100%】 ③ 行事文書配布や子供の現れの連絡(けが、病気含む) ④ 内進高校生の情報も含め生徒の良い点の発信	・7月休業中 定期面談とオープンキャンパス時等に呼びかけ ・2月懇談会前後に実施 ・6月地区別保護者会(交通対策、夏の準備)、2月懇談会学年別実施(進級について) ・各行時通知・学年通信などを発行した	B	・家庭との連携がきちんと取れている。 ・臨機応変にコミュニケーションが取れている。	B	・比較的家庭と連絡は取れている。 ・地区会の内容についてすぐに対応がとられていた。
	広報活動の充実	① 学年便りの発行、基本は共通【各学年11回以上発行】 ② 子供安全連絡網の有効活用 ③ オープンキャンパスでのアンケート実施【参加者2回で 100%】 ④ ホームページの充実と行事や事後発表会の 開放	・各学年で発行配布 年間8号まで発行する ・高校部と共通で活用した ・アンケート内では好意的な意見が中心。レポートや平日の来校は少し減少した ・内進生の入試結果報告 行事の連絡について活用した	B	・学年通信などで公立中との違いが保護者に伝わっている。 ・通信配布、情報発信など計画的に行われた。 ・目標が不明瞭。	B	・さらに内容の質を高めてほしい。 ・中高一貫教育の違いを明確に示すのに有効である。
VI 生徒募集	渉外活動の充実	① 説明会や講習会・オープンテスト等実施【参加延150名】 【実質参加70名】 ② 小学校や塾への渉外活動【小学校50、塾20以上】 ③ 各種行事の活用【文化祭、吹奏楽定演、参加70名】 ④ 長所と行事周知用のリーフレット作成【塾、小学校配布】 ⑤ 保護者会と卒業生父母の活用【パンフ配布等1回以上】	・来校世帯名簿約100世帯登録、昨年度より微増した 活用方法を検討したい ・講習会・オープンテストについても同様 最後まで児童を引っ張る手立てを工夫したい ・5月、7月、10月に実施 複数回訪問する価値はあるが、内容については検討すべき ・文化祭入試コーナー 資料提供 吹奏楽定演には小学生多数入場 ・入試関連行事リーフレット4月に作成配布した	B	・入試関連の行事の効果や意義は大きい。 ・小学校教員との交流の機会が定期的にほしい。 ・ターゲットが不明瞭である。 ・リーフレット等内容工夫の余地がまだあると思う。 ・一貫教育の良さを実績をPRしきれていない。 ・生徒数確保にもっと力をいれたい。	B	・中学の良さをもっと広くPRしたい。 ・一貫教育に関心がある保護者は多く、よく実情について聞かれる。 ・一貫教育の良さをもっと数値で表すことができないか。
VII 教育施設 設備の活用	快適な教育環境 の実現	① 自転車置き場、教室環境 職員点検【点検 100%】 ② 机、いすを大切に。ロッカー内整頓【全員】 ③ 節電、節水の励行。戸締まり【施錠・電源OFF100%】 ④ 防災教育と訓練の実施 【年2回】	・登校時、駐輪施設確認等、下校時間帯2階巡視 当番職員配置(3段階で) ・年度当初全体指導、ロッカー使用のデモ・ロールプレイ指導等実施し、啓発をねらった ・電源管理・安全意識・セキュリティ意識比較的良好だった 部内点検ノート記録実施継続中 ・5月全校 第1回避難訓練 9月地域防災参加奨励	B	・教室管理が良い。 ・備品、公共物を大切に公徳心をもっと養いたい。 ・規則を良く守っていると思う。	A	・物の大切さ、感謝の心について話をしてほしい。

学校評価は、ホームページでも公開します。

表・裏の活動の方策や指標について、評価(期末)をします。 評価は、学校全体の実践として評価してください。